

2017年度留学生への日本語支援プログラム実施報告

南 紅玉

東北大学大学院教育学研究科

はじめに

留学生を対象とした日本語支援プログラムは、東北大学大学院教育学研究科において2011年～2015年度に運用された「アジア共同学位開発プログラム」の研究活動の中で構想され、2014年度から本研究科内で実施されたものである。2016年度の後期から教育ネットワークセンターの事業として位置付けられ、今年度も継続的に実施された。本プログラムは、研究活動を行う上での実用性の高い日本語能力向上のための支援を目指し、ボランティアによる日本語支援を通して地域の人々、さらには留学生同士の幅広い交流につながるようなプログラムとして構想された。本稿では、今年度の支援活動の実施状況について報告し、最後に成果と今後の課題について述べる。

1. 今年度の日本語支援プログラムの内容

(1) 日本語支援プログラムの実施体制

本プログラムは、仙台市で四半世紀におよぶ外国人の日本語支援活動を行っている「国際都市仙台を支える市民の会(ICAS: International Citizen's Association of Sendai)」(代表: 氏家洋子氏)の協力のもと、「留学生のための日本語サポートの会」による人材提供を得て実施されている。サポートの会のメンバーは、長年にわたり外国人の日本語支援に携わる方々をはじめとしながら、出版関係者、元高校教員、東北大学の元職員、卒業生など、多様なキャリアを有している。こうした方々に本プログラムの実施にあたってはボランティアとしてご協力をいただいている。今年度、支援活動に協力いただいたボランティアは計8名であり、ボランティアサポーター側代表である奥平正子氏が窓口になりサポーターとの連絡を担当した。

年度始めに、教育学研究科に所属する全留学生のメーリングリストを作成し、これを通じて日本語支援プログラムの開催について周知した。本研究科の研究生の受け入れ時期が4月と10月の2回となっているため、後期にはメーリングリストを更新し、10月に入学する留学生への情報提供を行った。開催する各回の活動内容については、開催1週間前を目途にその都度留学生全員に案内メールを送信するという形で情報発信し、個々の授業への参加希望者を募った。参加者の人数確定後にはその人数をサポーター側代表である奥平正子氏に伝え、それに応じたサポーターの人数の調整をお願いした。

(2) 2017年度日本語支援プログラムのスケジュール

教育学研究科に所属する留学生全員を対象とした日本語支援の開催を研究科内各所に貼ったポスターや本研究科のウェブサイトを通じて広報するとともに、活動開催の前、前期は4月28日、後期は10月13日に、支援ボランティアの方々とともに説明会を開催した。

次に示した活動スケジュールにしたがって、2017年4月から2018年1月まで、原則として毎週金曜日の13:10～16:00に日本語支援活動を行い、全29回の開催の予定の中24回を実施することができた。開催予定としていた7月28日の第12回、8月4日の第13回、2018年1月27日の第27回、2月2日第28回、2月8日第29回は、いずれも学期末で参加学生が少ないため実施しなかった。この点については、来年度のスケジュール作成において考慮する必要がある。最終回では、授業の前半にボランティアの方々の交流会を設け、今年度の成果、問題点、今後の運用のあり方などについて意見を交換した。

2017年度 留学生日本語支援のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018/1月	2月	3月		
1						お休み			金⑮				1	
2			金④									金⑳		2
3									祝日					3
4					金⑬									4
5		祝日												5
6								金⑭						6
7				金⑨										7
8										金㉒		金㉑		8
9			金⑤											9
10								金⑩						10
11														11
12		金①									金㉕			12
13								金⑮						13
14				金⑩										14
15										金㉓				15
16			金⑥						金⑲					16
17														17
18														18
19		金②									金㉖			19
20								金⑯						20
21				金⑪										21
22										金㉔				22
23			金⑦											23
24									金⑳					24
25														25
26		金③									金㉗			26
27								金⑰						27
28	説明会			金⑫										28
29														29
30			金⑧											30
31														31

(2) 日本語支援プログラムの内容

本プログラムは、①日本語授業、②日本語添削、③論文講読という3つの領域に分かれて運営される。具体的には、①日本語授業では、新聞・雑誌を含む日本語資料をよみこなす能力を高めるための語彙、文法などについて学ぶ。次に、②日本語添削では、留学生が作成した発表資料、レポート、論文などの日本語を添削する。③論文講読では、留学生が読みたい論文をボランティアと一対一で講読する。実際に二つの授業内容に分けて進められた。

2017年度 日本語支援の内容

	内 容	時 間	場 所 (前期/後期)
①	日本語授業 (文法・読解)	13:10～14:30 (80分)	204 教室/201 教室
②	日本語添削・専門書購読	13:10～14:30 (80分)	203 教室/204 教室
③	日本語添削・専門書購読	14:40～16:00 (80分)	

注：時間変更 → 昨年度 ①② 13:20～14:50 (90分)
③ 15:00～16:00 (60分)

日本語授業（文法・読解）では、長年外国人に日本語を教えた経験のある氏家氏が講義形式で、日本語の文法および読解の授業を行う。日本語添削・専門書講読では、サポーターの方と留学生が一对一でレポートや論文の日本語添削および専門書の講読などを行う。日本語添削に関しては、二つの時間帯に分け、日本語授業に参加した学生がその次の時間に一对一の日本語添削や専門書講読などに参加できるように設定した。

2. 日本語支援の実施状況

今年度日本語支援に参加した学生数は19名であり、うち他研究科からの留学生が5名含まれている。参加者の内訳は、交換留学生4名、学部研究生5名、大学院研究生1名、修士1年2名、博士2年1名、博士3年1名となっている。参加者のうち、研究生及び交換留学生の参加頻度が最も高かった。そのうち、授業時間の関係上プログラムに参加できない学生については、教員が個別対応を行う場合もあった。博士課程の参加者は発表資料などの日本語添削を目的に1・2回のみの参加となっている。

2017年度 日本語支援実施状況

	日時	留学生参加者数(名)				支援者参加者数(名)		
		①	②	③	総数	①	②③	総数
前期説明会	4月28日	5				7		
第1回	5月12日	5	2	8	10	1	6	7
第2回	5月19日	4	2	4	6	1	6	7
第3回	5月26日	4	1	4	5	1	6	7
第4回	6月2日	4	3	5	8	1	6	7
第5回	6月9日	5	1	8	9	1	8	9
第6回	6月16日	6	1	6	7	1	6	7
第7回	6月23日	3	1	4	5	1	5	6
第8回	6月30日	休講	1	4	5	0	6	6
第9回	7月7日	3	0	3	3	1	7	8
第10回	7月14日	2	1	4	5	1	5	6
第11回	7月21日	0	2	1	3	1	6	7

後期説明会	10月13日	6				8		
第12回	10月20日	5	3	10	11	1	7	8
第13回	10月27日	5	0	6	7	1	7	8
第14回	11月10日	5	4	12	13	1	6	7
第15回	11月17日	4	4	7	10	1	6	7
第16回	11月24日	休講	7	7	10	1	6	7
第17回	12月1日	4	4	7	12	0	7	7
第18回	12月8日	2	4	5	9	1	6	7
第19回	12月15日	2	3	2	7	1	7	8
第20回	12月22日	2	2	4	6	1	7	8
第21回	1月12日	2	4	6	8	1	6	7
第22回	1月19日	2	4	6	9	1	7	8
第23回	1月26日	0		3	3	1	6	7
意見交換会	1月26日	1				7		

注：①日本語授業(13:10～14:30) ②日本語添削・専門書講読(13:10～14:30) ③日本語添削・専門書講読(14:40～16:00)

3. 支援者から見た留学生の課題

23回目の授業の終了後、支援者に今年度の指導内容のニーズの傾向と、参加した留学生の日本語レベルについて聞き取り調査を行った。その結果、様々な意見や感想が寄せられた。その一部を抜粋しまとめたのが下記の表である。

指導内容のニーズの傾向
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成した発表用原稿、論文などの添削 ・ 先行研究の文献講読 ・ 日本語の文法、助詞などの使い方、日本語の文の組立て、漢字の読み方 ・ 日本語の語句、文脈のつながり、敬語の使い方 ・ 英語論文の和訳の添削 ・ 日本の歴史について ・ 話し言葉をマスターしたい

参加した留学生の日本語レベル
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語のレベルが全然普通の日本人と同じように思える人がいれば、まだ日本語がたどたどしい、会話がたどたどしい、意味が通じない人もいる。 ・話すことが上手でも、書くことが苦手な人が多い。 ・すごく勉強熱心な学生が多く、勉強意欲があり、プライドが高い。 ・長文がうまくまとめられない。 ・読んでも漠然としてわからない、読み方がつかめない。 ・話す内容から言えば、大体みんな話は上手。ただ、書いたものを見るとやはり助詞が間違っている人が多く、そのまま日本語の論文を作成して指導教官に持って行ったらおそらく前後関係がわかりにくいと思う。 ・来たばかりの学生はあんまりスラスラ読めない。 ・学生には中国人が多い。知っていることが理解できる人は多いけど、文章の場合なかなか説明が難しい時がある。中国の学生のほとんどが、かなりの内容を全部詰め込んだ長い文章を書く。接続詞を使うことで論理的な文章にする指導が必要。 ・レベルによって、間違いを指摘する時の言い方を選ばないといけない。基本的に本人が書いた内容を変えないようにしている。 ・日本語の語彙と中国語の語彙は同じものとそうでないものがある。同じ漢字でも意味が違うものがある。文書の並び、段落ごとの展開とかも違うので、その辺をもっと勉強したほうがいいと思う。 ・日本語の文章の読み取りが上手になっても、相当高いレベルの文章を読んだ時、そのレベルにあった分の会話は返ってこない。それは難しいところ。 ・普通の可愛いね、なんかかかできて、それを格式ある言葉に乗せて表現できない。そこまでアップすることができないと、入学した後も大変だと思う。

教育学研究科のような文系分野における学習研究活動には日本人学生並みの高度な日本語能力が期待されている。本研究科に入学する留学生は、日本語能力試験 1 級程度の日本語能力を持っている学生がほとんどである。しかし、大学院では、授業の配布資料や参考文献を読みこなすことのみならず、ゼミなどでのディスカッションや発表能力についても強く求められる。

今年度参加した学生の状況を見ると、来日前に日本語能力試験 1 級を取得した学生であっても、スムーズに授業や研究活動に取り組むことが困難であると考えられる。したがって、支援の方向性として二つの課題が挙げられる。第一に、研究生の時から学習支援に参加してもらい、自らの日本語能力を把握したうえで、大学院に進学した後も継続的に日本語能力を高められるよう長期的に関わっていくことである。第二に、現在行われているボランティアによる添削は、日本語の文法に重きが置かれているので、論文作成の指導や専門分野での学習研究活動への支援は不十分であるという点である。このような課題に対しては、専門知識を持つ現役大学院生などによる支援も今後取り入れることを検討する必要があるだろう。

(写真：授業風景)

